

樹氷の再生に向けた取り組み

会場…蔵王温泉スキー場周辺



作成日
2024年12月26日
やまがた森林と緑の
推進機構 緑化推進課

ひとこと

まいた種や移植した苗が大きく成長し、樹氷を形作るようになるのは何十年も先のことと言われており、息の長い取り組みはまだ始まったばかりです。

また、枯れた本数に対して移植した本数はごく一部にすぎません。このため、種まきや稚樹の移植、そしてこれらの苗を守り育てる活動はこれからもずっと続けていく必要がありますので、関係機関との連携を更に強化し、樹氷の再生に向けて取り組んでいきたいと思っております。(担当Y)



激害地への移植活動の様子



種まきの様子



稚樹の移植作業



発芽したオオシラビソの苗



稚樹を移植した皆さんで記念撮影

蔵王の樹氷を形成しているオオシラビソの枯損被害が深刻なことから、オオシラビソの種をまいて育てる活動や、緑の少年団員らによる稚樹の移植作業などを行いましたので、その一部をご紹介します。

6月7日(金)、蔵王温泉スキー場の標高1400m付近に設けた県の試験場にオオシラビソの種をまきました。令和5年度には同じ面積に800粒の種をまきました。同年10月時点での発芽生存率は約35%(生育数281本)だった

ことから、今年度は3倍の2400粒に増やしての実施となりました。その後、約1カ月ごとに除草などの維持管理作業を行い、降雪前の10月時点での生育数は約569本、発芽生存率は約24%という結果でした。今後も発芽した稚樹の生育を

見守り、激害地に移植できるといえるようになるまで大切に育てていきたいと思っております。

9月6日(金)には、蔵王第二、第三小学校緑の少年団の団員や市内の中学生、県立村山産業高校の生徒ら合計83名が参加して、オオシラビソの稚樹の移植を行いました。この活動は、比較的被害が少ない蔵王温泉スキー場の中腹付近に自生している稚樹を被害が広がっている山頂付近に移植する取り組みです。

この日は21本の稚樹を移植することができました。この稚樹が樹氷を形成するようになるまでにはかなりの年月がかかるようですが、無事に成長して大きな樹氷ができることを願っています。